

## 令和 2 年度 第 1 回たまの版CCRsea懇談会 議 事 概 要

日 時	令和 2 年 11 月 26 日（木） 13：30～15：00																																		
場 所	玉野市役所 3 階 特別会議室																																		
出席者 (敬称略)	<p><b>【委 員】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長</td> <td style="width: 40%;">五嶋 幹雄</td> </tr> <tr> <td>玉野市医師会 会長</td> <td>渡邊 正俊</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長</td> <td>堀部 誠</td> </tr> <tr> <td>玉野商工会議所青年部 特別理事</td> <td>岡崎 晋典</td> </tr> <tr> <td>公益社団法人玉野市観光協会 専務理事</td> <td>岡本 章弘</td> </tr> <tr> <td>うのづくり実行委員会 委員長</td> <td>森 美樹</td> </tr> <tr> <td>特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク 公募委員</td> <td>斉藤 牧枝 木下 雅行</td> </tr> </table> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長</td> <td style="width: 40%;">勝俣 政信</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー</td> <td>佐々木裕介</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">玉野市 政策財政部</td> <td style="width: 20%;">部長</td> <td style="width: 40%;">藤原 秀紀</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>課長</td> <td>大倉 明</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>課長補佐</td> <td>高橋 千恵</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>主査</td> <td>藤本 修平</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>主事</td> <td>川井 良介</td> </tr> </table>		学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長	五嶋 幹雄	玉野市医師会 会長	渡邊 正俊	社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長	堀部 誠	玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	岡本 章弘	うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹	特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク 公募委員	斉藤 牧枝 木下 雅行	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長	勝俣 政信	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー	佐々木裕介	玉野市 政策財政部	部長	藤原 秀紀	政策財政部総合政策課	課長	大倉 明	政策財政部総合政策課	課長補佐	高橋 千恵	政策財政部総合政策課	主査	藤本 修平	政策財政部総合政策課	主事	川井 良介
学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長	五嶋 幹雄																																		
玉野市医師会 会長	渡邊 正俊																																		
社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局長	堀部 誠																																		
玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典																																		
公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	岡本 章弘																																		
うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹																																		
特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク 公募委員	斉藤 牧枝 木下 雅行																																		
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長	勝俣 政信																																		
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー	佐々木裕介																																		
玉野市 政策財政部	部長	藤原 秀紀																																	
政策財政部総合政策課	課長	大倉 明																																	
政策財政部総合政策課	課長補佐	高橋 千恵																																	
政策財政部総合政策課	主査	藤本 修平																																	
政策財政部総合政策課	主事	川井 良介																																	
配布資料	<p>資料 1 たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿</p> <p>資料 2 たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱</p> <p>資料 3 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>資料 4 たまの版生涯活躍のまち</p> <p>資料 5 これまでの取り組みの振り返り（事業推進主体）</p> <p>参考資料 たまの版生涯活躍のまち基本計画</p>																																		

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 開会あいさつ

### 3. 委員の紹介

### 4. 座長選任

- ・事務局より、平成 30 年度懇談会にて座長を務めていただいた学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長 五嶋幹雄氏を、座長へ推薦したいとの提案あり。

→ 委員全員より拍手。異議なしということで、五嶋氏の座長就任が決定。

### 5. 懇談会の運営方法について

- ・事務局より、以降の進行は、座長である五嶋氏に依頼したいとの説明あり。

→ 了承。

### 6. 議事

- ・事務局より、資料 4「たまの版生涯活躍のまち」 1. これまでの取組の振り返り（玉野市・関係団体）、資料 5「これまでの取り組みの振り返り（事業推進主体）」について説明。

→ 主な質疑は以下のとおり。

委員 A： 特定健診の保健指導についての成果はどのようなものであったか。また、玉野に移住して再度転出する人もいると思うが、そのあたりはどうか。  
若者の転出超過を抑制するのが CCRsea の目標であるが、現状も転出超過が是正されていないのであれば、計画そのものが不十分と考える。この根本的な問題をどう是正していくかを考える必要がある。

オブザーバー： 特定保健指導の成果について。保健指導によって完全に改善されたのは 2 名。それ以外の方は引き続き指導が必要であるが、8 割程度は運動や食事などの生活習慣が改善傾向にある。

委員 B： 玉野に移住された方の再転出について、資料が手元にないので感覚での回答となってしまうが、おおよそ 8、9 割はそのまま玉野市に定着している。一度玉野市外に出ても戻ってくる例なども見られる。20 代、30 代の若い方も多いので、市外で経験を積んで玉野に戻ってくるケースも 2、3 組あった。仕事の都合で市外に転出するケースはあるが、玉野市が嫌になって出ていくことはほばないと考える。

- 委員 A : 元々の日本版 CCRC の構想は元気な高齢者の地方移住を推進するというものであるが、たまの版 CCRsea では高齢者だけではなく若者の移住にも焦点を当てたものだと思う。家賃補助であったり、税金の軽減であったりといった他の市町村と異なるインセンティブを設けることが必要ではないか。
- 委員 B : 移住支援制度だけでいえば、他市町村と比較して玉野市が手厚いわけではないが、それでも玉野市を気に入って、住み続けるという意味を持って来ているように感じられる。
- 委員 A : 平成 30 年までの移住者は 57 名であったが、令和 2 年度末までに移住者数 100 名という目標を達成するためには、現状の支援では不十分だと思う。
- 委員 B : 直接的な移住支援ももちろん重要だと思うが、それだけではなく市が行う様々な施策によって玉野市全体の魅力を向上させていかないと、他の市町村も積極的な取組をされている中で、玉野市を選んでもらうのは難しいところもあると思う。
- 事務局 : 国が示した日本版 CCRC は、本来、定年退職した 60 歳前後の元気な高齢者の移住を推進するものであるが、現在、玉野市は瀬戸内国際芸術祭や直島の活動などの影響で高齢者だけでなく若い方も訪れる町となっていることから、創業アシスト奨励金など、若者へも手厚い支援を行っている。一方で若者の転出超過が止まらない状況は日本全体で起こっており、当市においても社会減として結婚や就職、進学で市外に転出する流れがある。地道な活動ではあるが教育委員会と連携し子供たちの郷土愛を育んでもらい、進学等で市外に転出しても就職する際には戻ってくるようにしたいと思う。また、CCRsea 構想の中で人材育成として商工高校に機械科を新設するなど、ものづくりのまち玉野として人材を育成し、基幹産業である市内のものづくりの企業に就職することで社会減を食い止める試みを行っている。転出超過に対する特効薬はないが、様々な手段を組み合わせることで転出超過の抑制に取り組んでいきたい。
- 委員 A : 日本全体の問題として転出超過が進む中で、玉野市も消滅都市となる可能性もあるので注視しなければならない。また、若い方だけでなく、高齢者や壮年者といった介護予備軍となる人たちに対しても、介護予防など手厚く事業を実施する必要がある。現在も様々な事業を行っているが、相互の連携が無くバラバラに見える。介護予防、栄養指導などを踏まえて統一したシステムで行うことで効果を高めることができると思う。

- 事務局： 総合計画の中で関係課、各団体と連携しながら、縦割りにならないように、横串を刺して、健康づくりを進めていきたい。
- 委員A： 旅行者が活用できる交通手段は自転車くらいしかない。王子が岳など有力な観光スポットへアクセスする交通手段が無いことも一考して欲しい。
- 委員C： 数値目標で見ると、目標に達していないため、現在の投資に対しての回収ができていないという感覚である。当事者として、ここまでの取り組みが正しかった、正しくなかった、どう考えているのか。いずれにしろ、数値目標に達していないということをきちんと受け止めて、打開策を打ち出さないと今後の成果も期待できない。ビジネスであれば潰れてしまうと思う。
- 事務局： ご指摘のとおり、数値で見ると達成していない状況である。ただ、たまの版生涯活躍のまちが目指す将来像である、好循環を生みながら発展し続けるまちの形成という意味では、少しずつ芽が出てきていると考えている。消費拡大・経済活性の面では、移住者などによる宿泊・飲食といった新規創業が増えてきている。民間投資の誘発の面でも、民間企業による宿泊施設の整備という大きな投資が進んでいる。移住交流人口について、まだまだという声もあるが、瀬戸内が世界から注目され、多くの方が移住してきていると感じている。
- 委員C： 期限を定めて事業を行う中で、目標数値に達していない部分については、しっかり反省・検証し、次にどう生かしていくのか検討して欲しい。
- 委員A： 事業推進主体による観光案内所の整備は、現状どうなっているのか。
- 事務局： 観光案内所は、事業推進主体が整備し、JR宇野駅構内にリニューアルオープンした。また、健康拠点である「健康ステーション」は、当初ショッピングモールメルカ内に設置していたが、本年9月に移転を行い、現在はたまの湯の中に設置されている。
- 委員A： 健康ステーションを今後建設予定のある市民病院の中に設置するなどしてはどうか。健康や予防などで広い年齢層のいろいろな人が利用するコミュニティができるようになるのではないかと考えるので、是非願います。
- 事務局： 関係課とも連携しながら、どこに拠点を置くのが適切か検討する。

委員B： 事業推進主体が行った事業の手応えはどうか。これまでと現在の状況、これからの見通しについて伺いたい。

オブザーバー： 資料5の4ページに記載のある令和元年度中に新たに開発した旅行商品について、①東兎が丘とヨットチャーターのプランは最近急に申し込みが増えてきており、GoToキャンペーンの影響が大きいと考えている。また、③のくじら島ステイはGoToキャンペーンの前から申し込みが伸びており、今年度だけで100名を超えるヒット作となっている。これは「密回避」で選ばれているので、GoToキャンペーン終了後も、申し込みが伸びると考えている。ヘルスケア事業について、人数は多いとは言えないが、地域資源を生かした健康づくりが少しずつ浸透してきたと、手応えを感じている。渋川海岸健康教室について、今年はコロナウイルス感染症の影響があり開催できていないが、昨年の参加者は有志で集まり自主的な活動を継続していると聞いている。特定保健指導についても、運動習慣が無かった人が特定保健指導後も、自主的に深山公園でのウォーキングを続けていると聞いている。

委員C： イベントへの参加は有料か。

オブザーバー： 基本は有料であるが、特定保健指導の対象者など一部無料の人もある。

委員C： 収支面では、目標と比較してどうか。

オブザーバー： 健康教室・イベント等の売上げに関しては目標の半分程度であった。特定保健指導の売上げは、初年度目標を達成している。

委員B： 移住希望者にも健康を気遣ったり運動が好きという方は多くいると思うので、そういった方に制度を広報できる仕組みや、お試し滞在の際に実際に体験できる仕組みも考えて欲しい。

事務局： 移住者の方にも参加していただけるプログラムがあれば紹介させてもらう。

委員A： 渋川の海洋博物館は良いところだが、近県にも水族館ができて付加価値が低下している。近くに王子が岳もあるので、リニューアル・改築など、海洋博物館の魅力も高めて観光振興を進めて欲しい。

委員D： 様々なプログラムや事業などは地上波のテレビでどのくらい取り上げられたのか。一過性になることもあるが、テレビで放映されてから一気に人気店となることもあると思う。言葉で言うほど簡単ではないが、メディアも上手に

活用して取組を周知して欲しい。

事務局： 個々の事業というのは取り上げられにくいですが、イベントなどはプレス発表をしてテレビに出る機会がある。飲食店もローカルテレビ番組では取り上げられ、くじら島は全国番組でも取り上げられている。ご提案のとおり、情報発信というのは大変重要と考えている。民間を活用した情報発信だけではなく、市の広報部門も活用してしっかりと情報発信を進めていきたい。

- ・事務局より、④資料 10 ページからの「たまの版生涯活躍のまち 第 2 期基本計画の策定に向けて」の資料説明。

委員 E： 資料 4 の 14 ページの DMO の形成について、関係者の合意形成などで苦労することもあると思うが、是非取組を進めて欲しい。というのも、現在の観光協会は、財源が限られているため新しいことを始めるのが難しいが、DMO とすることで国の補助金を活用しやすくなる等、メリットがあるので、より強力に観光振興を推進できると考えている。

資料 4 の 15 ページの健康増進について、現在は健康ステーションをたまの湯に移転したとのことだが、適宜、ショッピングモールメルカのスペースも有効に活用しながら、取組を進めて欲しい。

資料 4 の 16 ページの人材育成について、若者の転出超過という課題に対して、UNOICHI や瀬戸内国際芸術祭など、若者が地域のイベントに協力してくれるのはとてもよいことだと思う。そうした取組を通じて地元愛を醸成し、進学などで一度市外に出ても地元に戻ってくるように結びつけていきたい。

委員 F： 観光振興による交流人口増加やローカルブランディングの中に、瀬戸内国際芸術祭やアート作品があると思うが、改めて玉野の魅力についてみんなで話し合って、その魅力をアートを通じて発信して欲しい。

委員 B： 住んでいる人たちの拠り所となるような部分を軸として玉野市民みんなで共有できれば、外から玉野市を見た人たちも、行ってみたい、住んでみたいと思う。

委員 G： 色々な意見が出たが、中でも投資に対して成果が出たかという視点で検証すべきというのは、その通りだと思う。しっかりと効果検証をして次につなげて欲しい。

事務局： 次回の CCRsea 懇談会の開催は令和 3 年 1 月の中下旬の予定にしており、そ

のときの基本計画の素案について提示していきたい。詳細については改めてお知らせする。

## 7. 閉会

以上